

在NY邦人ら 地域活動に汗

同時テロ後に団体

昨年九月、米同時テロが発生したニューヨークに在住する日本人らがこのほど、「あのとき何もできなかった反省から、ボランティア活動で地域とのつながりを深めたい」とボランティアグループを結成した。阪神大震災を経験したメンバーもあり、被害者の慰霊イベントを計画。現地での非営利組織(NPO)法人化も目指している。

慰霊行事企画

NPO法人化も

このグループは「NY十人が参加。一九九五年の阪神大震災の被災地でボランティア活動に携わったメンバーもいる。在員や主婦、研修生、留学生など様々な理由で長期滞在する日本人ら約四十人が約四、五月にニューヨークでボランティ

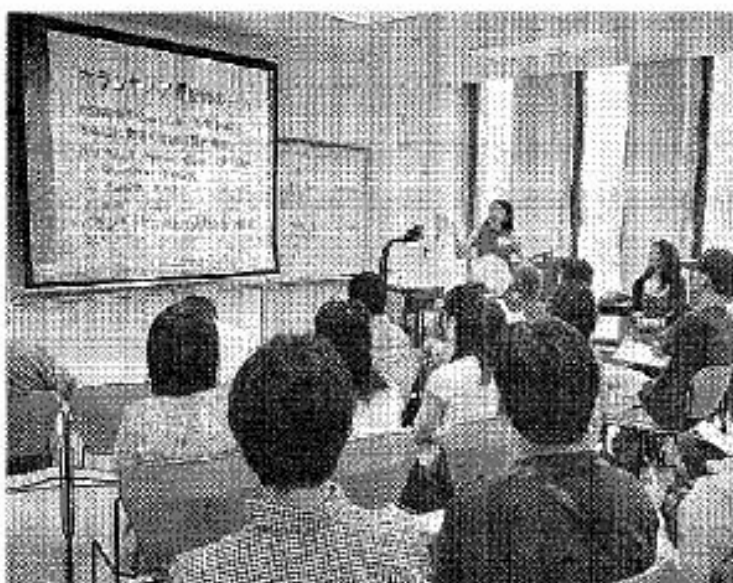
ア活動に携わったメンバーもいる。在員や主婦、研修生、留学生など様々な理由で長期滞在する日本人ら約四十人が約四、五月にニューヨークでボランティ

ア活動に携わったメンバーもいる。在員や主婦、研修生、留学生など様々な理由で長期滞在する日本人ら約四十人が約四、五月にニューヨークでボランティ

ア活動に携わったメンバーもいる。在員や主婦、研修生、留学生など様々な理由で長期滞在する日本人ら約四十人が約四、五月にニューヨークでボランティ

ア活動に携わったメンバーもいる。在員や主婦、研修生、留学生など様々な理由で長期滞在する日本人ら約四十人が約四、五月にニューヨークでボランティ

ア活動に携わったメンバーもいる。在員や主婦、研修生、留学生など様々な理由で長期滞在する日本人ら約四十人が約四、五月にニューヨークでボランティ



勉強会に集まったメンバーら(6月、ニューヨーク)

発起人の一人で、ニューヨーク在住約二年半の溝田弘美さん(38)は神戸出身。九五年の阪神大震災も経験した。溝田さんは「有事の際、自分が何ができるのか普段から考え、訓練しておくことが大切だと思う」と話している。

「英語が苦手」「一緒に参加する友人がいない」などの理由で、ボランティア活動に踏み出せないでいるという。日本企業の駐在員でメンバーの本田和秀さんは、昨年九月の米同時テロ発生時に「住民のボランティア活動を見て、市民社会の力強さを感じた」と振り返る。

「今度自分も巻き添えになるのでは」と強いショックを受ける。追悼式に参加し、ハドン川で灯ろう流しを行った。現在は「9・11」に